

報 告

令和 7 年 7 月 23 日

環 境 局

サーキュラーエコノミー推進課

第三セクターの経営情報について

(西日本ペットボトルリサイクル株式会社)

1 会社概況（令和7年3月末現在）

- (1)所在地 本社・工場：北九州市若松区響町一丁目62番
- (2)設立年月日 平成9年4月1日
- (3)代表者 代表取締役社長 千々木 亨
- (4)資本金 1億円
- (5)北九州市の出資金 500万円（出資の割合 5%）
- (6)当期末従業員 52名（取締役・パートタイマー・アルバイトを除く）

2 令和6年度 事業報告

同社は、市町村が分別収集する使用済みペットボトルを食品容器用再生PET樹脂製品及び非食品用途再生PET樹脂製品へリサイクルしており、北九州エコタウンの第一号立地企業として、平成10年7月に事業を開始した。

市が設置する環境産業推進会議に参画するほか、北九州エコタウン連絡会議において中心的役割を果たすなど、国内の資源循環や、本市の環境産業振興に寄与している。

(1)原料の調達状況

容器包装リサイクル法に基づく指定法人である、(公財)日本容器包装リサイクル協会からの調達は、大手リサイクラーの参入による原料調達価格高騰の影響で、前年度比▲91%の1,900トンとなり、大幅に減少した。

そのため、製品供給に最低限必要な原料確保に向けて、市町村独自処理ルートや事業系原料などからの調達先拡大を図ったが、前年度比▲25%（7,400トン減）の2万2,100トンの原料調達にとどまった。

(2)生産・売上の状況

原料調達量の減少により、生産量は前年度比▲15%の1万8,600トンとなり、売上高は前年度比▲5.4%（1億9,336万円減）の34億569万円であった。

(3)財務の状況

当期純利益 ▲1億2,462万円（R5年度：▲1億1,834万円）

原料調達量の減少及び調達価格の高騰により、昨年度に続いて赤字決算となった。

今後も原料の激しい争奪戦は続く見通しであり、事業継続と黒字回復に向けて、引き続き、調達先の多様化を推進していく。

具体的には、従来の(公財)日本容器包装リサイクル協会からの調達だけでなく、事業系原料等の低品位原料を用いた製造体制や、市町村独自処理ルート等による西日本全域からの原料調達網を構築することで、安定した原料調達およびコスト削減を図る。

なお、2期連続の赤字決算ではあるが、社全体の資産から負債を差し引いた純資産は13億6,322万円ほどあり、現時点で債務超過に陥る状態ではなく、今後の事業継続は問題ない状況である。

3 決算報告書

損 益 計 算 書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

(単位:千円)

科 目	金 額
売上高 ①	3,405,693
売上原価 ②	3,202,191
販売費及び一般管理費 ③	299,686
営業利益 ①－②－③＝ ④	▲96,184
営業外収益 ⑤	24,980
営業外費用 ⑥	5,237
経常利益 ④＋⑤－⑥＝ ⑦	▲76,441
特別損失 ⑧	11,265
税引前当期純利益 ⑦－⑧＝ ⑨	▲87,707
法人税・住民税及び事業税 ⑩	▲36,915
当期純利益 ⑨＋⑩＝ ⑪	▲124,623

貸 借 対 照 表

令和7年3月31日現在

(千円)

資 産 の 部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	1,218,269	流 動 負 債	920,316
固 定 資 産	1,835,834	固 定 負 債	770,569
有形固定資産	1,828,646	負 債 合 計	1,690,885
無形固定資産	3,536	資 本 金	100,000
投 資 等	3,651	利 益 剰 余 金	1,263,217
		純資産合計	1,363,217
合 計	3,054,103	合 計	3,054,103